

階上アブラメブランド化推進事業  
取組内容  
(令和3年度)

# 1. 資源管理

## (1) 種苗放流

### ア 稚魚放流

これまでの放流では、バケツで海面に投げ入れていましたが、放流時に魚体に与える衝撃を抑えて生存率を向上させるため、シューターを使用し、流しそめんの要領で放流を行いました。

平成30年約1,000尾、令和元年約4,000尾、令和2年約2,500尾を放流。稚魚放流の継続が、今後の資源量増加につながると期待されています。



放流準備



放流

### イ 標識装着

昨年度装着した標識リボンタグの脱落が懸念されるため、今年度からアンカータグに変更し、標識の数も2,500本から3,000本に増やし放流しました。生育状況や回遊範囲等を調査する目的から、標識放流は継続していく必要があると思われます。今後は、採捕報告のあったアブラメの情報のまとめや標識アンカータグの脱落率の調査を継続していきます。



標識タグ付け作業



漁港内放流

## (2) 自主的資源管理

### ア 漁場調査

標識タグのついたアブラメを撮影することができませんでした。が小～大サイズのアブラメを10数尾、婚姻色（金色に近い黄色）のオスの撮影に成功し、放流した漁場のアブラメが根付いていることを確認することができました。

今回の調査により、アブラメは定着性の強い魚であることを確認することができました。

## (3) 漁獲法研究

### ア 代替餌研究

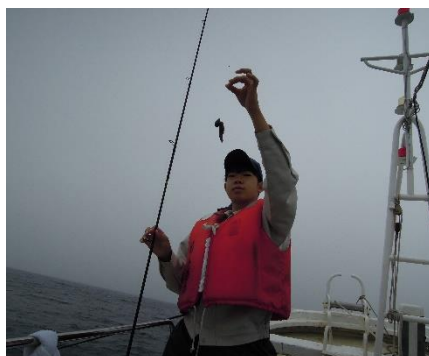
開発した餌については、細長いグミ状の「ワーム」と呼ばれるものを3Dプリンターによって作成した型枠にはめ、ゼラチンとこんにやくにより疑似餌を製作しました。また、市販の疑似餌に使用されているガルプオイルも混ぜ、市販の疑似餌の特徴も考慮しながら製作しました。

7月に2回実施し、悪天候の日もありましたが、釣りで良型りょうがたのアブラメやソイを釣ることができました。

代替餌の改良や釣りの仕掛けを工夫すれば効果的・効率的な釣果が期待されます。今後は、水中での餌の動き方や餌の色の検討を行い、アブラメに興味を持たせる餌づくりが必要だと考えています。



代替となる餌



階上沖で一本釣り

## 2. 消費拡大

### (1) 商品開発

ア 新たな定食メニューとテイクアウト商品の開発、改良

- ・八戸水産高校水産食品科による研究

「町の魚」⇒「より身近な魚」⇒「家庭で食される魚」をイメージし、ごはん（白米）に合うメニューを販売することを目的とし「アブラメの食べるラー油」と「アブラメのアヒージョ」の試作を行いました。

コスト面や、町内飲食店が製造することを意識しながら、高校ならではの工夫を凝らした商品開発に取り組んでいました。今年度は新型コロナウイルスの影響により、イベント等における試食・アンケートを開催できませんでしたが、今後の商品開発につながる良い取組となりました。



食べるラー油の試作



アヒージョの試作



作業風景



CompAss 第1回担当者会お披露目



- ・ レストラン mar による新たなテイクアウト商品の試作と販売

昨今の新型コロナウイルスの影響により、外食需要が減少する中、テイクアウトの需要が高まってきていることから新たな生活様式（食事：持ち帰り）に合わせたメニューを考案しました。アブラメを使った「フライドアブラメ&ポテト」を試作し、7月10日から提供を開始しました。

新たな様式に合わせたメニューを考案し、幅広い世代に親しみのある商品づくりを意識しながら試作～販売まで進めることができました。今後の魚食普及につながる取組となりました。



## (2)PR 活動

### ア イベントや飲食店におけるプロモーション活動

- ・ 町外飲食店へのプロモーション活動

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響によってPR活動の幅が制限されましたが、関東・関西方面におけるアブラメへの評価や食べ方等の需要調査を実施でき、今後のPR活動に繋がる良い材料を得ることができました。

- ・はしかみハマの駅あるでい～ばにおける PR 活動

これまであるでい～ばにおいては、鮮魚（ラウンド）としての提供と、調理を加えたメニューや加工品としての提供しかありませんでしたが、刺身で提供することで、アブラメ本来の味を伝えることができたと感じています。今後も、鮮魚・フィレ・刺身と3つの提供パターンを継続し、近場からの知名度向上を図っていきたくと考えています。



刺身販売の様子 @あるでい～ば

- ・八戸水産高等学校生徒デザインによるクリアファイルの作製

昨年度作製したティッシュに引き続き、生徒デザインによるクリアファイルを作製しました。今年度も新型コロナウイルスの影響により、PR活動が大幅に制限され、水産高校生によるあるでい～ばイベントでの配布を実施することはできませんでしたが、あるでい～ばで魚を購入したお客様にクリアファイルを配布しました。今後もこのような状況下でも効果的にPRできるような方法を考え、PR活動を継続していきます。



作製したクリアファイル

### 3. 流通促進

#### (1) 活魚輸送

昨年度は関東圏への輸送でしたが、今年度は関西圏への輸送試験を行いました。関西圏への輸送は、時間がかかるため酸素の充填量が問題となり、難しいものとなりました。

今後は、輸送コストや手間の面を考慮しながら、活締めで効率的かつ効果的な出荷方法を検討していくこととします。

### 4. 継続した取り組み

#### (1) 全長制限、遊漁船漁獲調査

前年度配布したポスターとステッカーの一部に変更があったため、町外の水産関係機関・団体へ再配布し、広域的な周知に努めました。また、遊漁船における釣果調査を実施したことで、遊漁による漁獲数量を把握することができました。資源量調査については、今後も継続していきたいと考えています。



階上町広報による周知



大蛇漁港釣りスポットへステッカー貼付



漁船・遊漁船へのステッカー貼付



小舟渡漁港冷蔵庫へのステッカー貼付